

指導体制の確保・充実に関する主な検討事項＜事務局作成メモ＞

【指導体制の在り方】

○集住地域・散在地域における支援の在り方

- ・外国人児童生徒等が増加し、多様化している状況において、きめ細かい指導・支援を更に推進するためには、地域の実情を踏まえ、自治体や学校においてどのような支援の在り方が求められるか。
- ・外国人児童生徒等の受入れ体制づくりについては、「外国人児童生徒受入れの手引（改訂版）」において拠点校の設置や巡回指導等を示し、各自治体において取組が進められているところであるが、今後、体制づくりを促進するうえで、効果的に機能する状況や工夫について考えられることは何か。
- ・指導体制の構築において、地理的な課題や支援人材のリソース不足といった課題を解決するために、デジタル技術の活用（生成 AI や ICT 教材の活用・遠隔授業の実施等）が今後見込まれるが、活用する際に留意すべきことは何か。

○校内体制の整備

- ・多様性を包摂する学校づくりに向けて、外国人児童生徒等教育の校内組織への位置づけ、共通認識の醸成、関係機関との連携等が効果的に機能するために必要な要素や方策は何か。

【日本語指導担当教師の配置やキャリアパス】

- ・日本語指導担当教師の配置について、義務標準法に基づく基礎定数化が着実に進められているが、各自治体における効果的な指導のためにどのような配置・運用の在り方が考えられるか。
- ・日本語指導担当教師等の経験が生かされるキャリア形成の促進に向けてどのような環境整備が必要か。

【日本語指導補助者（登録日本語教員を含む）や母語支援員との連携】

- ・日本語と母語の力を活用した資質・能力を育成するための指導を実施していくために、日本語指導補助者や母語支援員が担う役割や教員との効果的な連携について考えられることは何か。

- ・学校において登録日本語教員の活躍を促進するために、どのような方策が考えられるか。

【関係機関との連携】

- ・地域の支援団体や大学、企業等と教育委員会・学校が連携し、指導体制の構築を更に促進することが求められるが、そのための方策として求められることは何か。